



ひかりのこ

2021年度 **6月号**

日本キリスト教団
名古屋新生教会 教会学校だより
 名古屋市西区天神山3-7 TEL.052-531-1820
 HP: <http://nagoya-shinsei.church/>

教会学校礼拝・こどもれいはい 引き続きお休みのお知らせ

全国的な新型コロナ感染拡大の情勢により、愛知県でも「緊急事態宣言」が延長されました。これを受けて、引き続き6月20日（日）までの教会学校礼拝・こどもれいはい・分級を休止します（大人の礼拝も同様）。休止期間は状況により延長することもあります。その際にはまたお手紙でご連絡します。

新型コロナ情勢の一日も早い収束と、みなさまの体と心の健康をお祈りしています。そして、また教会で会えることを楽しみにしています。

今月の礼拝 単元12: 荒野の旅(出エジプト)

月日	週 題	聖書箇所	教会学校礼拝 (小5~中高生) 9:00 ~ 9:30	分級 I (小1~小4) 分級 II (小5~中高生) 9:35 ~ 9:55	こどもれいはい (幼児~小4) 10:00 ~ 10:20
6月6日	偵察隊の報告	民数記 13:1-14:38	教会に集まったの 教会学校礼拝・こどもれいはい・分級は、 引き続きお休みです。(大人の礼拝も休止) 裏面に聖書のお話を載せてありますので、 ぜひお家で読んでください。		
6月13日 花の日・子どもの日	新しいリーダー・ヨシュア	ヨシュア記 1章、3章			
6月20日	崩れたエリコの壁	ヨシュア記 6:1-21			
6月27日	カレブの挑戦	ヨシュア記 14章	武岡 基	(状況を見て) プレイ・タイム	安達正樹牧師

花の日・子どもの日 6月13日

教会の暦で、6月第2週の日曜日は「花の日」と「子どもの日」です。「花の日」として、教会を花で飾ったり、花を持って自分たちがお世話になっている方々を訪問したり、お見舞いに行ったりすることもあります。また「子どもの日」としては、子どもの健康や成長を祈り祝福する礼拝を守ったり、祝会を催したりします。

例年は、名古屋新生教会では礼拝堂にお花を飾って礼拝を守っています。今年はみなさんと一緒に教会での礼拝が守れなくて残念です。



今月の聖句

わたしはわたしの神、主に従いとおしました。(ヨシュア記 14:8)

今月のさんびか♪

こどもさんびか 32 (すべてのひとよ)

讃美歌21...46

教会での礼拝が引き続きお休みですので、今月のさんびかは昨年(2020年)10月に歌った32「すべてのひとよ」です。覚えている人もいないのではないのでしょうか。

フランス東部ブルゴーニュ地方の小さな村テゼにキリスト教の教派(プロテスタント、カトリック、東方正教会)を超えた祈りの共同体があります。改革派の牧師の子としてスイスに生まれたブラザー・ロジェさん(1915-2005)は、キリスト教の人たち同士が争っている姿に心が痛み、教派を超えた和解を生きる共同体を作りたいという希望を持ち、故郷スイスを離れてこの村に移り住み、祈りと労働の生活を始めました。1940年、第二次世界大戦中のことでした。彼はユダヤ人難民を匿い、戦争孤児たちを迎え入れました。1943年に彼は牧師となり、1949年には志を同じくする7人のブラザーたちが加わり、テゼ共同体が正式に発足しました。現在、テゼ共同体ではブラザーたちがキリスト者の和解と一致を目指して活動しています。世界各国から若者を中心に一週間の短期滞在プログラムも設けられています。毎日、朝、昼、夕の3度、和解の教会と呼ばれる礼拝堂に集い、歌と聖書朗読、とりなしの祈り、そして、長い沈黙からなる祈りの時間がもたれています。その祈りで歌われる歌はカノン(輪唱)や、短いもので、それらを繰り返して歌うことで祈りへと導く役割を持っています。賛美では伝統的な典礼文(ラテン語)を歌詞としてよく用いています。ラテン語をキリスト者共通の祈りの言葉として考え、いろいろな国の人たちと共に守る礼拝の際にラテン語の歌詞で歌うことも、たいへん意義深いことでしょう。

作曲はフランスの音楽家で作曲家のジャック・ベルティエさん(1923-94)です。彼はパリのイグナチオ教会のオルガニストとしても奉仕していました。彼は1975年から、テゼ共同体の礼拝や祈りの集いのために数多くの賛美歌を作り続け、この歌もその一つです。歌詞は、詩編117編1節「すべての民よ、主をほめたたえよ。」からつけられました。テゼ共同体の賛美は短く、何度も繰り返して歌うのが特徴的です。

ラテン語の歌詞を直訳すると、
 Laudate (誉め讃えよ) omnes (すべての) gentes (人々よ)
 Laudate (誉め讃えよ) Dominum (神さまを)

となります。Laudate の「ダ」の「J」(付点四分音符)で、つい区切りたくなりますが、「ラウダテ」で一つの単語ですから「テ」まで区切らずに歌いましょう。そのためには、歌い出しが3拍目(「ダ」が1拍目)であることを意識して、「7」(八分休符)まで一息で歌いましょう。ラテン語の歌詞を覚え、いつか他の国の人と共に歌える日が来るかもしれない、そう思うと何だかワクワクしますね。今回は伴奏譜を載せますので、ぜひピアノなどで弾いて、練習してみてください。

ラウダテ ほ たた オムネス ゲンテス
 Laudate (誉め讃えよ) omnes (すべての) gentes (人々よ)
 ラウダテ ほ たた ドミニム
 Laudate (誉め讃えよ) Dominum (神さまを)

すべてのひとよ

す べ て の ひ と よ しゅ を た た え よ
 Lau - da - te om - nes gen - tes lau - da - te Do - mi - num
 (ラウダ テオムネス ゲンテス ラウダ テドミニム)

す べ て の ひ と よ しゅ を た た え よ
 Lau - da - te om - nes gen - tes lau - da - te Do - mi - num
 ラウダ テオムネス ゲンテス ラウダ テドミニム)

▶ 礼拝 応答唱
 詞: テゼ共同体 曲: Jacques Berthier
 ♩ = 66

がたんじょうびおめでとう🎂

6月生まれのお友だち

教会学校礼拝・こどもれいはいは休止しますが、今回は礼拝予定の聖書箇所についての物語を載せませんので、ぜひお読みください。(6月27日から再開の予定ですが、物語は載せました。)

6月6日(日) ◇週題: 偵察隊の報告 ◇聖書: 民数記13章1節~14章38節

40日の偵察 「シムア」「はい」、「カレブ」「はい」、「ヨシュア」「はい」。モーセに名前を呼ばれた人が元気に返事をしました。名前を呼ばれたのは、イスラエルを代表する12人です。モーセはこの人たちに、「これからカナンに行ってきたなさい」と命令しました。カナンは、神さまがイスラエルの人々を住ませると約束して下さった土地です。エジプトを出てからカナンを目指す旅を続けて、やっと近くまで来たとき、神さまが、「カナンに偵察隊を送りなさい」とお命じになりました。モーセは、偵察隊の12人に言いました。「カナンについて調べてきなさい。どんな町で、どんな人たちが住んでいるか。どんな作物が取れるか、果物を持ち帰ってきなさい。」



出発した12人はカナンに入って、あちらこちらを見て回りました。大きなブドウの房がついた枝を見つけると、棒にくくりつけて二人で運びました。イチジクやザクロも手に入れました。

戻ってきた12人 「ただいま戻りました」。40日後、12人の偵察隊が帰ってきました。そして、モーセとイスラエルの人々に、持ち帰ったブドウやほかの果物を見せて、言いました。「カナンは、神さまのお言葉どおりすばらしい土地です。こんなに見事な果物が実っています。良い報告を聞いて、みんなうれしくなりました。ところが、続く報告は良い知らせではありませんでした。「ただ…、カナンに住む人たちはとても強そうです。しかも町は頑丈な壁に囲まれていて、入り込みそうにありません。」

そのとき、偵察隊の一人のカレブが言いました。「大丈夫ですよ！ぜひ、カナンに入っていきますよ。仲間のヨシュアも同じ意見でした。ところが、残りの10人は反対しました。「無理ですよ。あんな強そうな人たちがいるのに。かないませんよ。それを聞いたイスラエルの人たちは大声で泣き始めました。「そんな人たちと戦って死ぬのは嫌だ。エジプトに戻ったほうがまだよ」。カレブとヨシュアだけは、「神さまと一緒にいてくださるのだから、怖がってはいけません。私たちは必ず勝てる」と言いました。神さまは、カレブとヨシュアの信仰をお喜びになりましたが、約束を信じようとしないイスラエルの人々がっかりなさいました。



モーセの祈り モーセは神さまに祈りました。「恵み豊かな神さま。あなたの約束を信じないで、泣いたり怒ったりした人々をゆるしてください」。モーセの祈りを聞いた神さまは、イスラエルの人を見捨てないと約束してくださいました。けれども、カレブとヨシュア以外の大人はカナンに入れず、荒野をさまようことになるとおっしゃいました。

6月13日(日) 花の日・子どもの日 ◇週題: 新しいリーダー・ヨシュア ◇聖書: ヨシュア記1、3章

神さまの命令と励まし エジプトを出発して40年、モーセはすっかり年をとり120歳になっていました。モーセは皆の前にヨシュアを立て、「ヨシュアが私の後を継ぎます」と知らせました。若い頃からモーセのお手伝いをしてきたヨシュアは、モーセがどんなときにも神さまに従う姿を見ていました。やがてモーセが亡くなると、イスラエルの人々は30日もの間、悲しみました。モーセは本当にすばらしいリーダーだったのですね。けれども、旅はまだ続くのです。



新しいリーダーのヨシュアに神さまがおっしゃいました。「ヨルダン川を渡って、わたしがあなたを住ませようとしている土地に行きなさい。とても広いところですよ」。それまでモーセを頼ってきたヨシュアは、「こんな大勢の人たちを連れていくのはたいへんなだ」と思っただけです。けれども神さまは、「わたしがいつも一緒にいるから、勇気を出しなさい」と励ましてくださいました。それから、こんなこともおっしゃいました。「モーセがあなたに教えたことをすべて守りなさい。そうすれば、どこに行っても安心して暮らせます」。神さまは3回も、「わたしが一緒にいるから大丈夫。勇気を出しなさい」とおっしゃるのです。

ヨルダン川を渡る ヨシュアは、グループの班長さんたちを集めました。「このあとヨルダン川を渡って約束の土地に入ります。必要な食べ物の用意をください」。みんな元気に約束しました。「私たちは、モーセさんに従ったように、ヨシュアさんの言うとおりに従います」。

ヨルダン川に近づいたイスラエルの人たちは驚きました。向こう岸がはるか遠くにかすむほど広い川を、水がゴーゴーと音を立てて流れています。橋もありません。「向こう岸に渡るのは無理だ」と思う人もいました。でもヨシュアは、神さまが渡らせてくださると信じていました。いよいよ川を渡る時、ヨシュアは神さまが教えてくださったとおり、

祭司たちに言いました。「モーセが神さまからいただいた十戒を納めた『契約の箱』を担いで、先頭に立って渡りなさい」。祭司たちが、『契約の箱』を担いで歩き始めました。みんながその後が続きました。祭司たちの足が川に入ったとき、不思議なことが起きました。荒れ狂う水の流れがピタッと止まり、乾いた道が向こう岸までできたのです。祭司たちが川の真ん中に立っている間に、みんなは川にできた道を歩いて、全員向こう岸へ渡ることができたのです。



6月20日(日) ◇週題: 崩れたエリコの壁 ◇聖書: ヨシュア記6章1~21節

エリコの城壁 神さまが約束して下さったカナンに入るには、まずエリコという町を通らなければなりません。ところがエリコは、頑丈な石垣でできた高い城壁で町全体が囲まれていました。城壁の中に住んでいる人たちは、こんなことを話していました。「イスラエル人がやってくるよ」「イスラエル人を渡らせるために、神さまがあのヨルダン川の流れを止めたんだって」「この町に来たらたいへんだ！城壁の門をしっかり閉めておこう！」

神さまの作戦 エリコの町に到着したイスラエルの人々は、そびえ立つ城壁を見上げて、「ふう〜」とため息をつきました。「高いなあ、5メートルはあるよ」「門を探そう」。大きい門が見つかりました。でも、いくら押してもびくともしません。「だめだね」「エリコの町には入れないね」「せつかくここまで来たのに」と、みんながっかりしました。

けれども神さまは、「わたしはエリコの町をあなたたちにあげます」とおっしゃって、ヨシュアに不思議な命令をなさいました。ヨシュアは神さまの命令をしっかりと聞いて、みんなに伝えました。「神さまの命令です。行列して町の周りを行進しなさい。私が合図するまで、声を出してはいけません。いちばん前に武器を持った兵隊たち、その次に角笛を持った7人の祭司、それから『契約の箱』を担ぐ祭司たち、いちばん最後にも兵隊たちが続きます。祭司たちは、雄牛の角で作った角笛をブォーッブォーッと吹き鳴らしながら歩くのです。選ばれた人たちは、朝早く起きて、エリコの町の城壁の周りを黙って一周しました。6日間、毎朝同じように行進しました。なぜそんなことをするのか、誰にもわかりませんでした。神さまが命令なされたことを、そのとおりにしていただけです。



信仰による勝利 7日目の朝になりました。まだ薄暗いうちからきちんと並んで、この日だけは7周、城壁の周りを行進するのです。ザッザッザッと、足音をそろえて歩きました。1周、2周、3周…。7周目に祭司たちがブォーッと角笛を吹くと、ヨシュアが言いました。「大きい声で叫びなさい！」イスラエルの人たちは、できるかぎり大きい声で「おーっ！」と叫びました。そのときです。ガラガラガラッと大きな音を立てて、エリコの城壁が崩れ落ちました。イスラエルの人たちは大喜びでエリコの町に入ることができました。



6月27日(日) ◇週題: カレブの挑戦 ◇聖書: ヨシュア記14章

カナン土地を分ける エジプトを出発してから40年以上かかった長い長い旅が終わって、イスラエルの人たちはようやく目的地のカナンに到着しました。年をとって途中で死んでしまった人もいましたが、神さまの約束を信じて従ってきた人たちは、くじ引きでこれから住む土地を決めることになりました。「川のそばの土地が当たりましたよ」とヨシュアに言われた人たちは、「ありがとう」と言って川のそばに住みました。「山の方の土地が当たりましたよ」と言われた人々も、「ありがとう」と言って山の方に行きました。



元気なカレブ ところがカレブは、みんながくじ引きをする前に、「ヘbronの山地をください」とヨシュアに言ったのです。自分勝手なのから？ いいえ、違います。ヘbronには、背が高く乱暴な人たちが住んでいたのです。誰も行きたがらない土地なのです。カレブは言いました。「私はもう85歳のおじいさんですが、まだまだ元気です。働くことも、戦うこともできます。ヘbronにどんな乱暴な人たちがいても大丈夫。神さまが『一緒にいますよ』と約束して下さったのですから、ちっとも怖くありません」。カレブは若い頃と変わらず、神さまの約束を心から信じる人だったのです。こうしてカレブは、ヘbronに住むことになりました。カレブが住むようになってから、ヘbronはとても平和なところになったそうです。



ヨシュアの最後の説教 それからさらに月日が過ぎました。すっかりおじいさんになったヨシュアは、死ぬ前にどうしてもみんなに教えておかなければならないことがありました。ヨシュアは、シュケムという場所にイスラエルの人々を集めて言いました。「私たちのお父さんやおじいさんがエジプトで苦しんでいたとき、神さまがモーセをリーダーにして、助け出してくださいました。そのことを決して忘れてはいけません。神さまは私たちを、こんなにすばらしいところに連れてきてくださいました。神さまを大切に、いつまでも従いなさい。本当の神さまではないものを拝んではいけません。私と私の家族は本当の神さまに従います」。イスラエルの人たちは、「私たちも本当の神さまに従います」と約束しました。

ヨシュアは、110歳で亡くなりました。ヨシュアもカレブも、年をとってもずっと神さまに従い続けたのです。神さまは喜んでくださったことでしょう。

私たちもまた、神さまから「一緒にいるから大丈夫。勇気を出しなさい。」と声をかけていただいています。モーセやヨシュアのように本当の神さまに従い続ける人生を送ることができれば、私たちもまた、辛いとき、悲しいとき、悩んでいるとき、どんなときでも、神さまがいつもそばにいて支えてくださいます。